

清武小学校「弁当の日」

平成23年度 宮崎市立清武小学校

1 「弁当の日」のテーマ

食への関心や意欲を高め、実践力を培い、感謝の心や自立心を育てる。

～ 家族の絆を深める ～

2 「弁当の日」の基本的な考え方

「弁当の日」は、弁当作りに関わることで、家族の絆がより深まり、子どもの自立が促され、食に関する実践力を培い、生きる力を育てる有効な取組です。

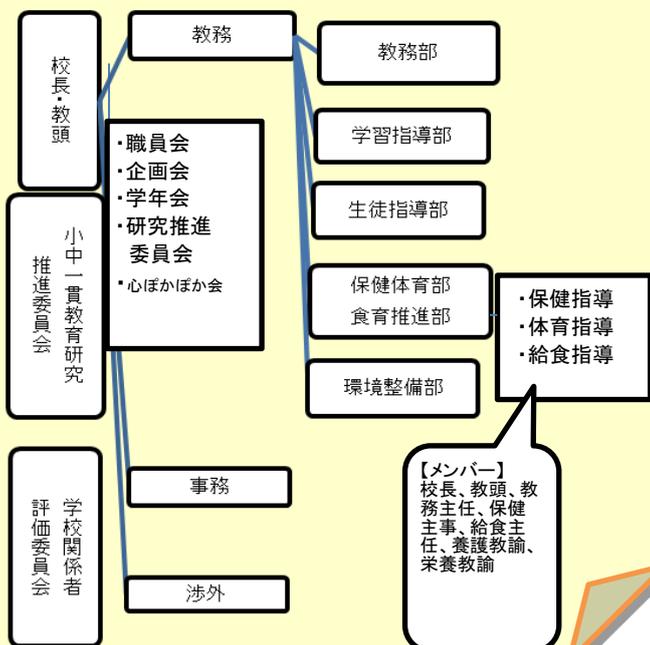
また、学校での会食や家庭での調理等の際友達同士や家族間でのやり取りで様々な触れ合いが生まれ、互いにより豊かな心が育まれるという、効果が期待されます。

清武小学校では、「弁当の日」の取組で、子どもたちの食に対する関心や意欲が一層高まり、食物を作る生産者や家族への感謝の気持ちをより深く実感させることができると考えました。

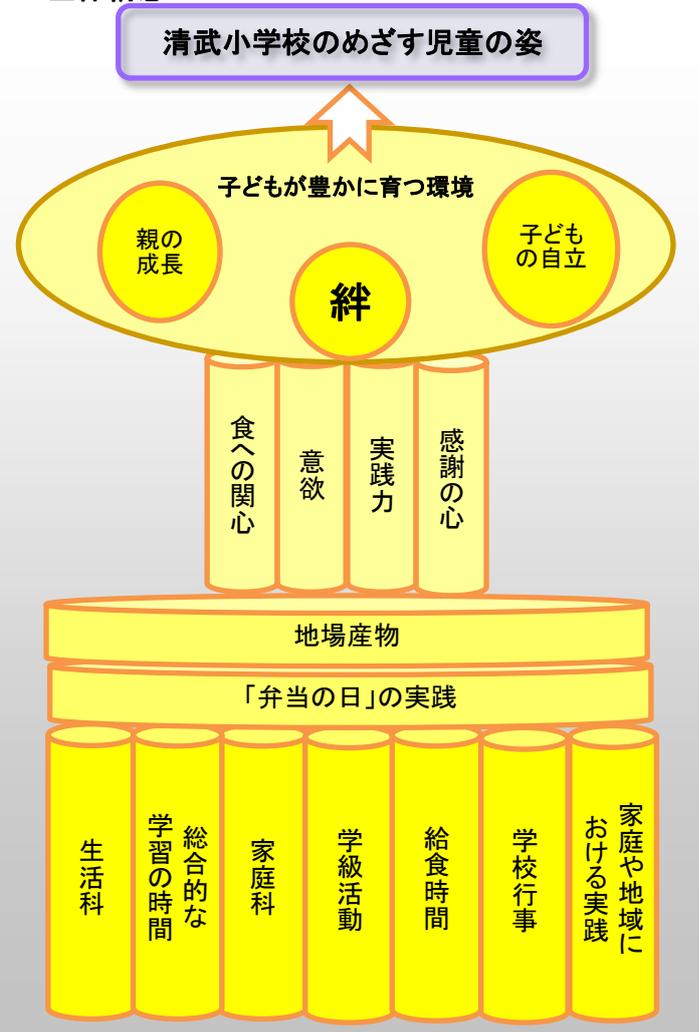
3 「弁当の日」の目的

- 子どもたちの食への関心及び意欲を高める。
- 子どもたちが自分の食を自分で作る実践力を培い、作り手や食材等に対する感謝の心や自立心を育てる。

4 「弁当の日」推進組織



5 全体構想

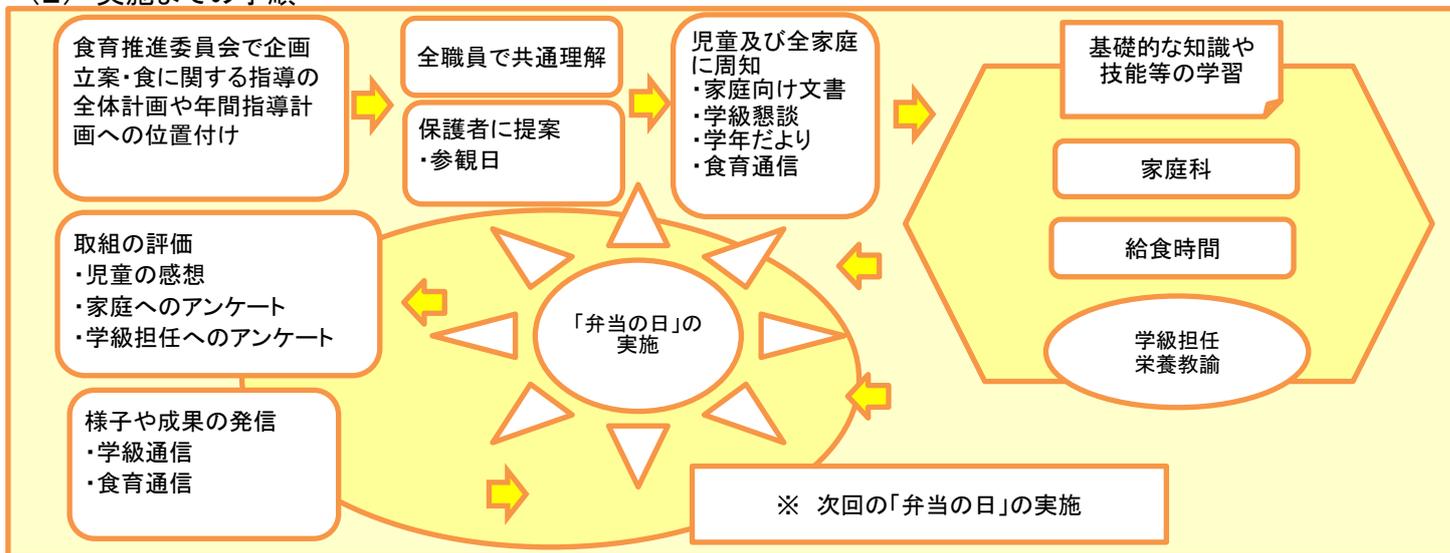


6 取組の実際

(1) 実施計画

期日	行事等	参加学年	概要
10月4日(火)	運動会予備日	全学年	1～4年 ～「親子で一緒に弁当作り!」～ ①中身と一緒に考えるコース ②買い物と一緒にするコース ③中身と一緒に作るコース ④中身と一緒に弁当箱に詰めるコース ⑤全部食べて家の人に感謝を伝えるコース
11月18日(金)	秋の遠足	1～5年	5～6年 ～「チャレンジ!自分で弁当作り!」～
3月8日(木)	お別れ遠足	全学年	①おにぎりを作ったりご飯を詰めたりするコース ②おかず(一部または全部)を作るコース ③中身を弁当箱に詰めるコース ④計画から弁当箱に詰めるまで、全部自分で作るコース

(2) 実施までの手順



(3) 実践の概要

ア 教育課程への位置付け

食に関する指導の全体計画や年間指導計画にも明示し、学校の教育活動の一環として、実施しました。

イ 推進体制の整備

食に関する指導の充実及び推進のために設置した「食育推進委員会」の組織を生かしながら、計画を立案し、種々取組を推進しました。

ウ 実施学年の設定

1～4年生は、「親子で一緒に弁当作り」とテーマを決め、弁当作りにも関わることとしました。

5～6年生は、「チャレンジ！自分で弁当作り」とテーマを決め、家庭科で習得した、基礎的な知識や技能を生かして、主体的に実施することとしました。

エ 教科等との関連付け

5～6年生は、家庭科において関連する内容を学習した上で「弁当の日」に臨むことができるよう、単元の配列を工夫し、「日常の食事と調理の基礎」に関する学習を5月から7月に実施しました。

オ 段階的な実施(コースの設定)

無理なく実施することができるよう、次のコースを設定し各自取組ませました。

1～4年生 ～「親子で一緒に弁当作り！」～

- ① 中身を一緒に考えるコース
- ② 買い物と一緒にするコース
- ③ 中身を一緒に作るコース
- ④ 中身を一緒に弁当箱に詰めるコース
- ⑤ 全部食べて家の人に感謝を伝えるコース

5～6年生 ～「チャレンジ！自分で弁当作り！」～

- ① おにぎりを作ったりご飯を詰めたりするコース
- ② おかず(一部または全部)を作るコース
- ③ 中身を弁当箱に詰めるコース

カ 課題の設定

全ての「弁当の日」で、**『親子の絆を深めよう！』**

7 成果と課題

< 児童の感想 >

- ・おかあさんが苦勞してお弁当を作っていることが分かりました。
- ・おかあさんと、材料を買いに行ったことが楽しかった。
- ・初めて自分で作れて、おどろきました。
- ・朝5時に起きられた。
- ・自分で作られて自信がいった。
- ・ブリを焼いたり、新しい調理に挑戦して頑張った。
- ・初めて全部自分で作った。時間がかかったけど、次回は計画的に作りたい。
- ・夜中の2時半に目覚めた。お母さんに料理を習って作った。大変だったけど上手くできた。
- ・家庭科で習ったとおりに出来た。

< 保護者の感想 >

- ・家ではお湯を沸かすことすらもさせたことが無かったが、一緒に料理をして、ハラハラしたが、少しずつでも経験させないといけなと感じた。やらせれば作れると感心した。
- ・積極的に揚げものも作っていた。一緒に作ることで、こんなにも出来ると、びっくりした。将来のため機会がある度に一緒に作りたい。
- ・年下の兄弟の分まで作ってくれて助かった。
- ・卵焼きがとても上手に作れた。親も感心した。
- ・弁当の本を参考にして作っていた。

※ 考察

学年や児童の実態に応じた弁当作りの取組ができていた。1～4年生は親と一緒に買い物や、おにぎりを作り、おかず詰めをすることが多かった。また、5～6年生は、家庭科の調理実習を生かし、自分なりにおかずを作ることに挑戦していた。いずれも積極的に取り組む児童が多く、ほめられることで充実感を味わっていた。自分の食べるものがどうやって調理されるのかなど、児童が食に対して関心をもったようである。また、作ることはいろいろな苦勞があるのだとも考えている。保護者には火を使うなどの不安はあったものの、一緒に作ったり見守ったりすることで、児童のやる気を支えてもらった。ただ、弁当作りの日は早起きする児童もおり、疲れが出る。取り組む期日は検討の余地がある。

